

教科	工業	科目名	建築計画	単位数	2
学科	建築	学年	2 学年	履修区分	必修
使用教科書	「建築計画」(実教出版)				
副教材など	「建築計画演習ノート」(実教出版)、補助プリント				

1. 科目の目的

- ① 建築の発達、歴史的な変遷、現状などの習得をめざす。
- ② 建築の設計活動に深い関心と意欲を持ち、合理的かつ意匠的に計画し実践できる能力と態度を養う。

2. 授業の内容と進め方

本校では、講義のみの授業にならないように、教科書を理解させるだけではなく、実習科目と連携をとって各種資格試験の取得にもつながる知識を習得しています。

3. 学習する上での留意点

各單元ごとに小テストを行います。各学期に中間考査・期末考査を実施します。

4. 課題等について

各單元ごとに、学習到達目標に達しない生徒は、補習を実施します。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	建築と環境、住宅の計画などに関する基本的な知識と技術を習得し、建築物を合理的かつ創造的に計画する力を身につけている。
思考・判断・表現	建築物の計画に関する課題を見だし、各分野の知識・技術を活用して、科学的な根拠に基づき思考・判断し、その解決策を的確に表現する能力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	建築計画の各分野に興味・関心をもち、環境に配慮した安全で快適な建築物を計画する力の向上を目指して、主体的に学習に取り組んでいる。

6. 評価の方法

- (1) 出席状況。
- (2) 授業への取り組み状況。
- (3) 授業ノートの内容。
- (4) 定期テスト
- (5) 項目ごとの小テスト。

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	(1) 建築計画の概要 ア 建築計画の意義 ① 建築物の役割 ② 建築物に影響を与える要素 ③ 建築計画の内容	○建築物がつくられる目的や、建築のもつ意味や本質、計画の進め方について理解することができる。 ○気候や光が建築物に与える影響や快適な住環境を計画する上で基礎的な要因であることについて理解することができる。	中間考査
	5	イ 建築計画の進め方 ① 条件のとらえ方 ② 計画の立案と進め方 ウ 建築計画の進め方 ① 建築と形態 ② 建築と色彩		
	6			
	7	(2) 建築物の内外の環境 ア 気候 ① わが国の気候 ② 室内気候 イ 日照と日射 ① 日照と日射 ② 日射 ウ 採光と照明 ① 採光 ② 照明		期末考査
	9	エ 換気と通風 ① 室内の空気汚染 ② 換気 ③ 通風		中間考査
	10	オ 伝熱 ① 貫流 ② 結露		○熱や音が建築物に与える影響や快適な住環境を計画する上で基礎的な要因であることについて理解することができる。
	11	カ 音響 ① 騒音 ② 音圧と残響		
二 学 期	12	(3) 住宅の計画 ア 住宅の意義 ① 住宅の目的と種類 イ 全体計画 ① 敷地・配置・平面・設備計画	○住宅計画の基本的な手法について、「建築製図」と関連付けて理解することができる。 ○建築物に用いられる各設備の概要について理解することができる。	期末考査
	1	(4)住宅の計画 ア住宅の意義 ①住宅の目的 ②住宅の種類 イ全体計画	○集合住宅の計画の基本的な手法について「建築製図」と関連付けて理解することができる。	
	2	①調査・検討項目 ②敷地計画 ③配置計画 ④平面計画 ⑤設備計画 ウ各部の計画		
3	①寝室・居間 ②食事室・台所 ③便所・浴室 ④バルコニー	期末考査		
三 学 期				